

2021/07/19 (月)

朝の礼拝

聖書 ヨハネによる福音書20章19,20節 (新約聖書210頁)

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。

シャローム

私が一日で「ああ、幸せだなあ」と思う瞬間があります。それはベッドに横になり肌掛けをかけた瞬間です。もう何も言えません。秒速で、枕元の部屋の電気のリモコンに手が触れた瞬間、もう意識はなく眠りに入ります。すべてを委ね、明日を迎えるだけです。

復活されたイエスは「あなたがたに平和があるように」と言われました。当時のアラム語で「シャローム」です。例えばハワイへ行けば「アロハ」、韓国なら「アンニョン」、英語圏なら「ハイ」のようにオールマイティの言葉です。とても気さくな挨拶の言葉です。

戦争がない、家がある、服がある、食べるものがある、健康で、身体が不自由ではないから平和だと言うなら、人類は一度もそのような平和を過ごしたことはありません。それどころかイエスは死という絶望の中で「シャローム (平和があるように)」と言われたのです。

死によって分かれたとしてもなお「シャローム」と言えるのはなぜでしょうか。最後に弟子たちは「主を見て喜んだ」とありました。見てとは「信頼して」という意味です。私たちが互いに励まし、共に主に信頼し委ねれば喜びの時、安らぎの時にあずかるのです。

(しばらく黙祷しましょう)

すべての人に平和を与えて下さる主よ、あなたは十字架の死という絶望の淵から「平和があるように」と赦しと和解の言葉をかけて下さいました。そして弟子たちはあなたを信頼し、互いに赦し愛し合う喜びを知りました。どうか今日一日もすべてをあなたに委ねて、安全で健康な学校生活を守り、よき学びの時をお与えください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン